

勿凝学問 314

囚人のジレンマの制度化は、何が問題なのか？

歯科医師連盟で説明した社会保障の周りで起こっていたこと

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

2010年6月14日

昨日は、歯科医師連盟で演題「いま、社会保障の周りで何が起きているのか？——永田町、霞が関、そして医療界」で講演をする。その中で、最近書いてた、次の文章と関係のある話をした。

[2010年5月28日](#)のホームページ

戦で勝利をもたらしてくれる将軍が、人類の歴史の中で幾度も神のように扱われてきたように、選挙で勝利をもたらしてくれたひとが、党内で絶対的な権力を持つのは理解できるにはできるけど、選挙に強いて言ったら、その力の源泉は、①[代替案なき批判](#)と、②赤字国債を当てにした票と引き替えでの現金給付（僕が言う、囚人のジレンマの制度化）という、2つの選挙戦略をおおっぴらにつかっていることにあるだけなんだよな。これらは、政治家のような、エンドユーザーにはなかなか理解できない専門情報を取り扱う職業人にとっての禁じ手なのよね。このふたつの禁じ手を使えば、そりゃあ、選挙に強いだらうよ。でもこうした、政治家が遵守すべき倫理規制を完全に無視した選挙戦略に、おとなしく従い、これまで批判もしないでいた若い奴らってのは、僕的にはあり得ない存在なんだけどね。先日、ある医療団体の長と話をしていた、その時に僕が話すことを、「耳が痛い話です」というから、僕は、「なにもみなさんが一番悪いわけではない。みなさんが合理的に行動すれば、日本が最悪の状態に陥るゲームの場を設定した政治家が最も悪い。みなさんの悪さは2番目、3番目ですからご安心を」と話したばかりなので。

歯科医師連盟では、次のスライドを紹介した後に、「囚人のジレンマの制度化」の話をした。

2009年8月前後で起こっていたこと

- 小沢・鳩山体制がやっていたこと？
- 選挙に強いことの意味
 - 囚人のジレンマの制度化
 - 代替案なき批判——普天間問題で明らかにされた「腹案戦略」

「代替案なき批判」については、「勿凝学問 293 [それは禁じ手なんだが、残念なこと](#)
[にそれが民主党の常套手段——代替案なき批判は、政治の世界でも研究の世界でも百害あ](#)
[って一理なし](#)」に書いている。昨日は、これに加えて、次のような話をする。

いま、2つの団体が存在する社会が保有する財源は100で、団体AとBに、それぞれ50が分配されているとする。ここで、ゲームのルールを設定できる権力者が、2つの団体に、次の条件を提示したとする。

- もし、2つとも政治的に中立でいるのならば、これまでどおり、それぞれに50を分配する。
- もし、お前が我が方を支持したら、お前には褒美として100、政治的に中立でいようとした相手には、罰として0とする。

権力者が設定したゲームの下では、2つの団体A、Bの利得表は次のようになる。

各論賛成総論反対政策 囚人のジレンマの制度化

		団体B	
		政治的中立	支持
団体A	政治的中立	(50, 50)	(0, 100)
	支持	(100, 0)	(100, 100)

		団体B	
		政治的中立	支持
団体A	政治的中立	(現状維持) 財政は持続可能	(罰、褒美)
	支持	(褒美、罰)	(褒美、褒美) 財政破綻

団体 A と B が協同しないことを前提とする時、2 つの団体が、合理的に行動すれば、いずれの団体も支持を選択することになる。しかしながら、それでは国は早晚滅びる。このゲームがそうした欠陥を孕んでいることがバレてはいけなないので、財源は霞が関にいくらでも隠されているとウソを言い続け、そのウソを国民が信じ込むように、度を超えた官僚バッシングを展開する¹。こうした、ゲームの設定は、総論としてはみんなはおかしいと思う。しかしながら、目の前の利得に目がくらんで各論としては支持してしまい、権力者の権力を強化する役割を担うことになる。

この国で閉塞感が打破されるためには、きっかけはどうかあれ、一旦は、先週のような「政権交代」が行われて、政界は次頁の「現在の布陣」にまとめられる形になるしかなかったのである。

¹ 「勿凝学問 178 [度を超えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民主党だろう——小泉氏引退表明の日](#)」参照。

社会保障を取り巻く動向

- 2006年7月7日から2010年6月8日まで
- 2006年7月7日
 - 閣議決定「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」
- 2007年9月26日
 - 福田内閣の成立で自民党内での政権交代
- 2009年8月30日
 - いわゆる「政権交代」?
- 2010年6月8日
 - 菅内閣成立で民主党内での政権交代

2

Keio University
Y Kenjoh



現在の布陣 (政界再編のマグマは大きい)

	財政問題を正直に論じて、国難を乗り越えようとするグループ	財政問題でウソをついて衆愚選挙をしかけ続けようとするか、社会保障機能強化を考えていないグループ
与党	民主 菅グループ	民主 小沢グループ
野党	自民 谷垣グループ 立ち上がれ日本 与謝野グループ	自民 上げ潮派 みんなの党 等々

「勿凝学問312 まともな野党が生まれてきたというこの国の好機」より

7

Keio University
Y Kenjoh



今、財政問題を正直に論じる野党という「まともな野党」が、この国ではじめて登場してきた²。その上、与野党の党首が財務大臣の経験者であるという幸運の下にある。この幸運な環境を大事に生かしていかなければならない時なのである。

² 「勿凝学問 312 [まともな野党が生まれてきたというこの国の好機——政権交代の意義は、やっぱり、バカな最大野党がいなくなったことなんだよ](#)」参照。

今の政治は、良かれ悪しかれ世論調査が動かしている³。世論調査は浮動票が動かしている。世論調査のひとつ、支持率もそうである。特定の利益集団が、政府の支持率を下げるような振る舞いをするのは、今の幸運な環境に傷をつけることにつながるのだから、厳に慎んでもらわなければならない。新聞で公にされるような、あまりにも露骨な動きは、浮動票を失うリスクを伴う⁴。しっかりとしたコネを築いてきた相手が、浮動票からの支持を失ってしまうと元も子もないはず。もっとも、ここ8カ月ほどは、ゲームのルールを設定者が、浮動票の怖さをあまり認識せず、組織票に依存した選挙戦略を露骨に展開してきた。それは、空軍が主流になる時代に、戦艦大和を作っていたかつての日本軍のようなものであった。

利益集団は、旧来の方法で政治にアプローチするよりも、世論を味方に付ける行動を選択した方が、中長期的に見れば得になると、以前から私は論じてきている。

次の文章は、2009年年初の『日本歯科医師会雑誌』に掲載された、大久保日本歯科医師会会長との対談の中で、私が話したことである。講演では、これを冒頭で紹介した。

**日本歯科医師会(081112)「権丈教授に医療政策をきく」
『日本歯科医師会雑誌(2009, Vol.61, No.10 and No.1)』**

- これまでもいたるところで言ってきたことですが、私は、医療・介護サービス、および保育・教育サービスを、あたかもみんなが自由に使って良い共有地のように利用することができる、すなわちダイナミックな市場を共有地で囲いこんだような社会を作りたいと思っているわけです。ですから、是非とも医療関係者には、医療だけでなく、介護、保育、教育も共有地のように利用できる社会の構築を掲げる団体であってほしいと思っています。

³ 「世論政治」という言葉を定義した、2004年に書いた次などを参照。勿凝学問 13 [今の野党って楽な仕事なのか、それとも辛く切ない仕事なのか？—年金と自衛隊イラク派遣をめぐって](#)

⁴ たとえば、「[\[政治の現場\]支持団体\(1\)日歯連の急転向 目算狂う](#)」『読売新聞』2010年1月28日朝刊四面。

- いっそのこと、医療団体は医療のためではなく介護、保育、教育のために消費税の引き上げは必要だと考えていると言ってみてはどうですか——捨ててこそ浮かぶ瀬もあれです。今は大衆の力、世論の力がかつてないほどに強い時代です。各団体は、世論の支持を得ることが、政治家に働きかけるよりも、まずなによりも重要な時代になってきています。



- 医療への財源を確保するための社会保険料の引き上げや、医療への租税投入の説得に関する言論活動は、医療が崩壊の危機にあることを知っている第三者たる我々が引き受けますから、医療団体という専門家集団は、介護、保育、教育までも視野に入れて、日本の公共部門全体の機能強化、日本人の生活を支える公の部門を総合的に設計し整備していく一番の推進力として、さらには経済界の力に拮抗する生活者代表の勢力として、この国の中で存在感を示してもらいたいと思っています。



講演の終了後、フロアーから、「我々、利益集団は、政治とどのように係わっていけばいいのでしょうか」との質問があった。私は、「今日の講演録を、ラインマーカー片手に線をひきながら読んでいただければ、ご質問に対する回答は、すべて含まれていると思います」と答える。

ちよいと緊張感のある講演会だったかな(笑)——応援に駆けつけてきてくれた方々、

どうもありがとう。。